

## 教育概要

### (1) 学 科 目

#### ① I 群

本学では、薬剤師として豊かな人間性を養い、幅広い教養を身につけることを目的として、I群を1・2年次に開講しています。

なお、I群は「基礎科目」(選択科目)、「英語」(必修科目)、「教養演習科目」(必修科目、選択科目)、「補習科目」(自由科目)の4つの科目区分で構成されています。

「英語」については、国際的に通用する薬剤師の養成を目的とし必修科目として開講しています。また、これらの科目は、2年次以降に開講される専門英語教育科目の基礎となる英語力を身につけます。

授 業 科 目		履修方法	配当年次と単位数	
			単位数	配当年次
基 礎 科 目	文 化 と 芸 術	全 て 選 択	1	1・2年
	宗 教 と 人 間		1	1・2年
	日 本 近 現 代 史		1	1・2年
	薬 剤 師 の た め の 法 律 学 I		1	1・2年
	薬 剤 師 の た め の 法 律 学 II		1	1・2年
	グ ローバル時代の国際関係		1	1・2年
	グ ローバル時代の経済		1	1・2年
	医 薬 品 市 場 と マーケティング		1	1・2年
	医 療 ビ ジ ネ ス		1	1・2年
	社 会 保 障 と 福 祉		1	1・2年
	国 際 社 会 と 医 療		1	1・2年
	ス ポ ー ツ 科 学		1	1・2年
	代替医療入門(セルフメディケーション)		1	1・2年
看 護 学	1	1・2年		

※実際の開講期は各学期の授業時間割表により表示します。

授 業 科 目		履修方法	配当年次と単位数	
			単位数	配当年次
英 語	総 合 英 語 I A	全 て 必 修	1	1年前期
	総 合 英 語 I B		1	1年前期
	総 合 英 語 II A		1	1年後期
	総 合 英 語 II B		1	1年後期
	科 学 英 語 の 基 礎 I		1	2年前期
	科 学 英 語 の 基 礎 II		1	2年前期
	薬 学 英 語 入 門 I		1	2年後期
	薬 学 英 語 入 門 II		1	2年後期

※英語科目については、受講クラスが指定されています。なお、「総合英語〇〇」は、授業時間割では「英語〇〇」と表記されています。

[2006、2007年度入学生用]

授 業 科 目		履修方法	配当年次と単位数	
			単位数	配当年次
教養演習科目	基 礎 演 習	必修	1	1年前期
	薬 学 基 礎 実 習		1	1年後期
	フィジカルエデュケーション	選択	1	1・2・3・4・5年
	中 国 語		1	1・2・3・4・5年
	英 会 話		1	1・2・3・4・5年
	地 域 薬 学 研 究		1	1・2・3・4・5年

[2008年度以降入学生用]

授 業 科 目		履修方法	配当年次と単位数	
			単位数	配当年次
教養演習科目	基 礎 演 習	必修	1	1年前期
	薬 学 基 礎 実 習		1	1年後期
	フィジカルエデュケーション	選択	各1	1,2,3,4,5,6年
	中 国 語		1	1・2・3・4・5年
	英 会 話		1	1・2・3・4・5年
	地 域 薬 学 研 究		1	1・2・3・4・5年
	リベラルアーツⅠ（医療人）		1	1年
	リベラルアーツⅡ（アート）		1	1年
	リベラルアーツⅢ（健康・運動）		1	1年

- ※「フィジカルエデュケーション」は体育実技を行う科目です。
- ※「中国語」は受講生数の制限を設けています。詳細については、ガイダンスで案内します。
- ※「中国語」「英会話」については、孔子学院、北陸大学オープン大学で開講している語学講座を一定の条件を満たして履修できれば、単位の認定を受けることができます。
- なお、対象になる講座及び受講方法については別途掲示にて案内します。
- ※「地域薬学研究」は、薬学部に関連する学外研修及び研修に伴う講義等の一連のプログラム（事前学習、現地プログラム、レポート等）を修了することにより、単位の認定を受けることができます。
- なお、対象になるプログラム及び申込方法等については別途掲示にて案内します。
- ※「リベラルアーツⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は人間性豊かな薬剤師の育成という本学の教育目標のもと、「読書・運動・芸術」を通して教養教育を行う科目です。
- 選択科目扱いですが「履修指定科目」として開講されるため、1年次生全員に履修を義務付けます。

授 業 科 目		履修方法	配当年次と単位数	
			単位数	配当年次
補習科目	わ かり や す い 化 学	全て自由科目	1	1年前期
	わ かり や す い 生 物		1	1年前期
	わ かり や す い 物 理		1	1年前期

- ※「補習科目」は、入学後に実施される基礎学力試験を実施し、ある一定水準の成績に達しない学生について受講指定する科目です。ただし、「わかりやすい物理」については全員に受講を義務付けます。
- 薬学部の専門教育科目を学ぶ際に基礎となる「生物」「化学」「物理」をしっかりと身につける重要な科目となります。これらの科目については、卒業要件単位に算入しない自由科目扱いとなります。

## ② II 群

卒業に必要なII群(専門教育科目)の単位数は、必修科目155単位と選択科目13単位以上の合計168単位以上です。その他、「補習」が該当する学生に義務づけられます。

1) 必修科目	専門科目	112単位	2) 選択科目	専門科目	8単位以上
	実習系科目	43単位		コース科目	5単位
	計	155単位		計	13単位以上

※「コース科目」は、5～6年次に行われるコース別の演習を指します。3つの演習(高度医療薬剤師演習、東洋医薬学演習、健康医療薬学演習)から1つを選択して履修します。

**高度医療薬剤師演習** 大学病院における実務実習やPBLを通して、生活習慣病・感染症・ガンなど特定の病気に精通した薬剤師の養成を目的とします。

**東洋医薬学演習** 東洋医学・漢方処方学など東洋医薬学に精通した薬剤師の養成を目的とします。

**健康医療薬学演習** 健康科学・社会衛生・代替医療などに精通し、健康維持や病気の予防に専門知識を発揮できる薬剤師の養成を目的とします。

### 2) 1年次「補習」について

大学で学ぶ専門教育科目は、大変高度な内容を含んでおり、基礎的教科内容を完全に理解していることが必要です。

1年次前期必修科目のうち、基礎的な自然科学系必修科目の定期試験において不合格あるいは欠席した場合は、9月中旬に行われる「補習」を受講しなければなりません。なお、「補習」の受講を義務づけられた学生のうち、補習への出席回数が正当な理由なしに2/3を満たさなかった学生は、追再試験受験資格がなくなります。「補習」を受講することが、当該科目の追再試験の受験資格となります。

### 3) 1年次「薬学基礎ゼミ」について

1年次「薬学基礎ゼミ」で、これからの学びを進めてゆく上で必要不可欠な技術—スタディ・スキルズ(聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・書く・表現する・伝える・考えるという9つの力)—を少人数ゼミ形式で学びます。

### 4) 3年次「臨床体験学習」について

臨床に係わる実践的能力を培うため、聴診器の使い方から血圧測定、心肺蘇生法、さらには各種シミュレーターを用いての注射手技の模擬体験実習等を行います。

### 5) 薬学共用試験について

4年次後期、臨床実習に入る前に学生の臨床実習に必要な基本的な臨床能力(態度・技能・知識)を適切に評価するため、全国統一の共用試験が行われます。実施方法は「コア・カリキュラム」を対象にした「CBT」と「OSCE」の2本立てで行われます。

「CBT (Computer Based Testing)」

コンピュータを用いた知識評価のための多肢選択形式の試験。種々の難度の問題の組み合わせや採点がコンピュータを用いて行われます。

「OSCE (Objective Structured Clinical Examination)」

客観的臨床能力試験。臨床実習を行う際に必要とする基本的な臨床能力(患者さんとの対応に関する技能・態度・マナー)を客観的に評価するための試験です。

なお、共用試験対策として「実務事前学習」及び「CBT対策講座」を開講するなど、共用試験合格に向けての体制を整えています。

### 6) 実務実習について

5～6年次に5ヶ月間の実務実習が義務付けられており、病院及び薬局各11週間の実践的な実習を行います。

なお、実務実習に備え、4年次には「実務事前学習」が行われます。



科 目 名		配当年次と単位数												
		単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修 (講義)	栄 養 科 学	1								1				
	環境健康学Ⅰ(社会・集団と健康)	2							2					
	環境健康学Ⅱ(生活環境と健康)	2							2					
	薬理学Ⅰ(総論と神経薬理)	1				1								
	薬理学Ⅱ(臓器別薬理)	1					1							
	薬理学Ⅲ(炎症と血液薬理)	1						1						
	薬物治療学Ⅰ(臓器別疾患)	2					2							
	薬物治療学Ⅱ(臓器別疾患)	1						1						
	薬物治療学Ⅲ(免疫と悪性腫瘍)	1						1						
	薬物治療学Ⅳ(臨床薬理)	1							1					
	病態生理学Ⅰ(症状と疾患)	1				1								
	病態生理学Ⅱ(症状と疾患)	1					1							
	病態検査学Ⅰ(臨床検査値と疾病)	1					1							
	病態検査学Ⅱ(臨床検査値と疾病)	1						1						
	生物薬剤学(薬物の生体内運命)	2						2						
	臨床薬剤学(薬物治療に役立つ情報)	2							2					
	物理薬剤学(製剤化のサイエンス)	2						2						
	医薬品開発論Ⅰ	1				1								
	医薬品開発論Ⅱ	1					1							
	医療薬学(コミュニティーファーマシー)	2								2				
調剤学(処方せんと調剤)	2							2						
臨床薬学概論	1		1											
薬事関係法・制度	2								2					

必修 (演習)	総合薬学研究	15										← 15 →
	総合薬学演習	17										17

選択 (講義)	香粧品科学	1				1						
	和漢薬学	1				1						
	鍼灸学	1					1					
	漢方(中医)処方学	1						1				
	先端医薬品論(薬を探す、創る、使う)	1					1					
	薬局薬品学	1					1					
	薬物送達学	1						1				
	薬局経営学	1						1				
	法医裁判化学	1							1			
	血液学総論	1							1			
	臨床生理学	1							1			
	毒性学	1							1			

科 目 名		配当年次と単位数												
		単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修 (実習)	基礎化学系実習	1.5			1.5									
	有機化学系実習	1.5			1.5									
	物理化学系実習	1.5			1.5									
	分析化学系実習	1.5			1.5									
	生化学系実習	1.5			1.5									
	生体防御系実習	1.5			1.5									
	天然物化学系実習	1.5				1.5								
	衛生環境系実習	1.5					1.5							
	病態解析系実習	1.5					1.5							
	薬理系実習	1.5						1.5						
	薬剤系実習	1.5						1.5						
	臨床薬学系実習	1.5							1.5					
	実務事前学習	5							← 5 →					
	実務実習	20									← 20 →			
選択科目	高度医療薬剤師演習	5									← 5 →			
	東洋医薬学演習	5									← 5 →			
	健康医療薬学演習	5									← 5 →			

## (2) 進級基準・成績考査・単位試験・成績評価

### ① 進級基準

#### 【1年次】

次の2項目を満たしていること。

- 1) 1年次開講必修科目の未修得単位数が6単位以下であること。  
なお、薬学基礎実習の単位を修得済みであること。
- 2) I群の選択科目の修得単位数が8単位以上であること。

#### 【2年次】

次の3項目を満たしていること。

- 1) 1年次開講必修科目の単位をすべて修得していること。
- 2) 2年次開講必修科目の未修得単位数が6単位以下であること。  
なお、実習系科目の単位はすべて修得済みであること。
- 3) I群の選択科目の修得単位数が10単位以上であること。

#### 【3年次】

次の3項目を満たしていること。

- 1) 2年次開講必修科目の単位をすべて修得していること。
- 2) 3年次開講必修科目の未修得単位数が6単位以下であること。  
なお、実習系科目の単位はすべて修得済みであること。
- 3) II群の選択科目の修得単位数が4単位以上であること。

#### 【4年次】

次の2項目を満たしていること。

- 1) 3年次及び4年次開講必修科目の単位をすべて修得していること。
- 2) II群の選択科目の修得単位数が8単位以上であること。

#### ② 成績考査

講義・演習・実習が終われば、履修が十分であったかどうかを判定し、単位を認定するための成績の評価が行われる。

評価は、平素の成績を原則とするが、各試験も評価の重要な要素となる。また、出席状況や受講態度も平素の成績に加えられる。

演習科目や実習・実技科目では、筆記試験の他に口頭試問、レポート、課題研究など他の方法と併せて成績が評価される。

#### ③ 単位試験

試験名	試験実施時期など
定期試験	講義終了後の学期末に行う。 ----- 1. 定期試験に合格すれば、単位が与えられる。 2. 不合格の場合は、「再試験」を行うことがある。
追試験	「追試験願」に基づき、定期試験終了後に行う。追試験は定期試験に準ずる扱いをする。
再試験	定期試験と同一年度内に行うことがある。 ----- 1. 再試験に合格すれば、単位が与えられる。 2. 不合格の場合は、その科目が未修得になる。 必修科目では、「最終試験」を行うことがある。但し、留年した場合は、その科目を再履修しなければならない。 選択科目では、受講しなかったことと同様となり、その単位数が不足の場合には、進級や卒業が不可能になる。
最終試験	未修得の1～3年次必修科目について、進級した年度に行うことがある。また、特別に指定した科目については、当該年度に実施することがある。 ----- 1. 最終試験に合格すれば、単位が与えられる。 2. 不合格の場合は、その科目は未修得となり、留年し、再履修しなければならない。

④ 成績評価……各科目の成績は、100点満点で次のような評価で表示される。

60点以上を合格とし、合格科目は単位が認定される。但し、追試験は80点、再試験・最終試験は69点を最高点とする。

判定	成績評価	成績評価基準	
		成績	基準
合格	S(秀)	90点～100点	期待以上に特に優れた成績を修めたことを表わす。
	A(優)	80点～89点	期待以上に優れた成績を修めたことを表わす。
	B(良)	70点～79点	妥当と認められる成績を修めたことを表わす。
	C(可)	60点～69点	合格と認められる最低限の成績を修めたことを表わす。
不合格	F(不可)	59点以下	合格と認められる最低限の成績を修めることができなかったことを表わす。
対象外	TC(認定)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他大学等での履修により修得した単位</li> <li>・留学により修得した単位</li> <li>・資格取得等により認定された単位</li> </ul>	修得単位として認定された成績であることを表わす。

#### 【GPA制度】

成績評価に基づく学業結果を総合的に判断する指標としてGPA (Grade Point Average) 制度を導入している。GPAは、学生一人ひとりが、学修意欲とその成果を総合的、かつ、客観的に確認できる指針となり、今後の勉学意欲をより一層高めることにもつながる。また、学生一人ひとりに対し、効果的かつ適切な指導を行うための資料や奨学金や大学院推薦の選考資料としても利用できる。

GPAの計算方法は、各履修科目の成績評価 (S・A・B・C・F) をそれぞれ数値化し、その数値化した評点に単位数を乗じた総評点を登録科目の総単位数で割って算出する。

#### ■ 成績評価とグレードポイント

成績評価	ポイント
S (秀)	4
A (優)	3
B (良)	2
C (可)	1
F (不可)	0

※「TC (他大学での履修により修得した認定等) 及び卒業要件に算入されない科目」については、評価の対象とはならない。

■ GPAの算出方法

$$\text{GPA} = \frac{(\text{Sの単位数} \times 4) + (\text{Aの単位数} \times 3) + (\text{Bの単位数} \times 2) + (\text{Cの単位数} \times 1) + (\text{Fの単位数} \times 0)}{\text{履修科目の総単位数}}$$

例)	履修科目	単位数	評価	ポイント
	人間学 I	1 単位	S	4
	薬学生の基礎化学	2 単位	A	6
	物理化学 I	1 単位	B	2
	薬用植物学	1 単位	C	1
	スポーツ科学	1 単位	F	0

上記の計算式にあてはめると、GPA=13÷6 単位=2.17になります。

(3) 卒業要件

I 群	必修科目	英 語	8単位
		教養演習科目	2単位
	選択科目	基礎科目、教養演習科目	10単位以上
		合 計	20単位以上
II 群	必修科目	専門科目	112単位
		実習系科目	43単位
	選択科目	専門科目	8単位以上
		コース科目	5単位
		合 計	168単位以上
合計	188単位以上		